



初の試みスノーアート&ドローン撮影

令和6年度を終えて

皆さま、こんにちは。事務局長の河又です。
 いよいよ3月も終わり、季節もだいぶ春めいてきました。
 着任初年度となった令和6年度は、既存の計画に基づいた着実な事業運営を第一義として取り組んでまいりましたが、おかげさまで大過なく無事に終了することが出来ました。
 ご指導くださった関係の皆さまには、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、4月からは、先ごろ正式に決定しました予算&事業計画に基づく、新年度がスタートします。
 足元では、長らく黒松内町観光の拠点として親しまれてきた自然の家の閉館をはじめ、町民センターの改修工事なども予定されており、観光事業においては厳しい環境となることが予想されますが、一方では町民待望の「Kumagera Kichen」が新装オープンするなど、明るい話題もあります。
 折しも本年度は、町としての中長期的なビジョンを策定する年でもありますので、町役場をはじめとする町内の関係各所とは連携を密に「黒松内町が目指すべき未来の姿」を観光事業の立場からデザインするとともに、その実現に向けた第一歩を踏み出す1年にしたいと考えております。
 関係の皆さまには、尚一層のご支援を賜りたく存じますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

第4四半期のトピックス

前回のB2でお示した「令和7年度の活動方針(案)」においても重点取り組み課題の1つとして挙げておりました「人材の育成と環境・仕組みづくり」ですが、その具体的なアクションの一環として去る2月に観光交流ネットワークミーティングを開催しました。
 第13回目となる今回は、北海道観光振興機構の「アドベンチャートラベル専門家派遣事業」という枠組みを活用し、外部からテーマに沿った専門家の方をお招きする形で、今後の観光振興における重要課題である「宿泊問題」と、今や黒松内町観光の7割を占める「外国人観光客への英語対応」をテーマに以下の通り講演&研修会を実施しました。

- ①2/4(火)「民泊・無人ホテルの開発・運営について」：参加者9名
 <講師> 株式会社MASSIVE SAPPORO代表 川村健治(かわむら けんじ)氏
- ②2/7(金)「外国人旅行者に対するガイド講習 / 英語対応講座」：参加者4名 / 10名
 <講師> M's English代表 馬上千恵(もうえ ちえ)氏

当日は、町内で観光事業に従事されている方を中心にたくさんの方にご参加いただき、講義やその後の質疑応答などを通じて、知見を深めていただきました。

B2

ニュースレター

2025/3/28

来期の観光協会の主な事業
 黒松内岳山開き

【フットバスクラブ通信】

今年度最後のイベント「中央分水嶺を歩く〜第7弾〜！」を実施しました。

【ご挨拶】

4年間協力隊として活動して下さった古本さんですが、この度観光協会を離れることとなりました。皆様への感謝のご挨拶です。

【事業報告①】

AT商品造成支援事業にて有識者からのアドバイスをいただきました。新アクティビティ候補スノーアート初登場です。

【じり通信No.35】文：山本竜也

平成の大合併前の212市町村、覚えてますか？そんなちょっと前の北海道がパズルになっているそうですよ。

【事業報告②】

のようなものです。
 立川志の輔の「パールのようなもの」ってのはなしおもしろいですよ(何

協会主催・協カイベント

黒松内岳山開き

毎年恒例の山開きです。
 5/18開催予定です！

キャンプ

独り言なんだけど・・・
 5月くらいにルピックで何かあるらしいですよ。

フットバスクラブ総会

4/18(金)開催予定です。



フットパスクラブ通信 Vol. 19

「中央分水嶺を歩く ～第7弾～」レポート

3月2日(日)、冬のフットパスイベント「中央分水嶺を歩く 第7弾」が開催されました。今回のコースは6.0km、高低差150mとややチャレンジングでしたが、一般参加者、黒松内フットパスクラブの会員、スタッフを含め総勢30名となりました。一般参加は募集開始からわずか1週間で満員になるほどの人気ぶりでした。

当日は風速6mの予報が出ており、やや強い風が吹く中でしたが、青空が広がる絶好のスノーシュー日和。国道37号線の静狩トンネル付近から出発し、分水嶺の上から海岸線が見える地点を目指して歩きました。途中、海岸線が横ではなく縦に伸びる「縦静狩」(ガイドを務めた辻野健治氏命名)と呼ばれる珍しい風景が広がり、参加者は写真を撮るなどして楽しんでいました。

目的地に到着すると、みんなで静狩海岸を眺めながらお弁当を広げ、和やかな昼食タイム。その後、記念写真を撮影し、帰路へ。帰り道では林道や植林地帯を通り、最後の急坂では尻滑りを楽しむ場面もありました。大きなトラブルもなく、無事にイベントを終えることができました。

次回のフットパスも、素晴らしい景色と楽しい時間を提供できるよう努めていきます!(岡本)



ご挨拶

観光協会の4年間を振り返って

2021年4月に観光協会職員として町のPR動画制作や新商品開発、新イベントの企画・開催、メディア対応、人材発掘、釣りガイドなど、さまざまな業務に携わってまいりました。

私は室蘭市で生まれ、3歳で東京へ移り、25年間テレビ番組制作に従事してまいりましたが、生まれ故郷に恩返しをしたいという思いから北海道に戻ってまいりました。観光協会での活動を通じ、町の魅力を発信し、地域活性化に貢献したいと考え、日々取り組んでまいりました。

組織の運営については、さまざまな課題や方向性の違いを感じる場面もありましたが、貴重な経験を積むことができ、多くのことを学ばせていただきました。特に、地域資源を活かした新しい取り組みに挑戦できたことは、大きな財産となりました。

また、この場に所属していなければ出会えなかった多くの方々とご縁をいただけたことに、心より感謝申し上げます。皆様には今でもお世話になっており、これからも変わらぬご指導・ご支援を賜れば幸いです。

今後は、町の発展により一層貢献できるよう、4月から起業に向けた準備を進めてまいります。映像制作やイベント運営、物販などを通じて、町民の皆さまはもちろん、道民の皆さまにも笑顔が届けられるような会社を設立することを目指しております。まずは町を盛り上げるため、全力で取り組んでまいりますので、温かく見守っていただけますと幸いです。

これからも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。(古本)

4年間、観光協会の活動をしてくださり、ありがとうございました。いろいろな出会いや苦労があったんですね。お疲れ様でした。今後は、起業家として道民の笑顔を作るため、更なるご活躍を期待しております。(事務局:遊佐)



ガッツリテレビにうつってましたね! オンちゃんともんすけのところのYoutubeで見られますよ!

AT商品造成支援事業

新商品！？スノーアート体験！

2月26日（水）、後志総合振興局が主催する「アドベンチャートラベル商品造成事業」に参加し、有識者や振興局の方々計5名を迎えて黒松内町でファミツアーを実施しました。

「Niseko and beyond～黒松内・ニセコ、ひとと雪、水とコメ～」をテーマに、全2日の日程のうち1日目を黒松内町にて、自然豊かな黒松内町の魅力を体感していただきました。ブナの森自然学校の大類さんがガイドを務め、ブナ林でのスノーシューウォークを楽しんだ後、我つまにて地元の食材を使ったランチを堪能。午後には、野球場でのスノーアート体験、ふぁーむいん富田でのポテトチップス作り体験が行われました。

特にスノーアート体験は今回が初めての試みで、振興局の希望で実現しました。一面新雪に覆われた野球場で、ツボ足での歩き方を練習した後、雪で作った椅子とテーブルで一息、温かいドリンクと大谷さん特製のパンを味わった後、北海道の形をスノーアートで描きました。最後にはドローンで記念撮影を行い、参加者からも大好評でした。

有識者からは「インバウンド向けだけでなく、国内のインセンティブツアーにも良さそう」との声をいただきました。翌年にはインバウンド向けに新たな観光プログラムとして展開できるよう準備を進めていきます！（岡本）



じり通信No.35

北海道地図パズル 文：山本竜也

平成の大合併前に北海道には212の市町村があった。そのすべての名前と位置を知っている道民はどれだけいるのだろう。私は天気予報という仕事柄、市町村の名前と位置を覚えることも大事なので（注意報や警報は市町村別に発表しているのだ）、ある程度は分かるが、上川地方や空知地方、網走地方などは怪しい。

先日、「地図パズル屋古社工芸」から『北海道 平成の大合併前版』なる地図パズルが出ていることを知り、購入した。レトロな色合いの板に、北方領土も含めて218市町村のピースがはまっている。さっそくバラして、挑戦してみる。むろん黒松内町の位置は分かるが、訓子府町、和寒町など悩んでしまうピースもある。微妙に位置がずれるだけで、うまくハマらなくなり、爪楊枝で調整せねばならぬ。しかし、ピタッとハマると、少々揺らしても、崩れることがない。紙のパズルだったなら、こんな快感は味わえない。

作者の方にメールで伺うと、ゆくゆくは「昭和の大合併前版」を作る計画もあるらしい。となると、黒松内町も、黒松内村、熱帯村、樽岸村に分かれていた時代である。ほかの市町村にしても、もっと細かく区切られており、1953年の時点では284もあった。今回のパズルでも完成まで30分ほどかかるが、さらに難易度は上がるだろう。発売が今から楽しみである。



今の北見なんかは合併後に守備範囲が一気に広がった影響でインフラ周りの管理が大変らしいですね。合併の功罪をとかやく言うつもりはないけれど、以前はそれなりに丁度いい感じで分かれてたのかなあ？なんて思いますね。（事務局：遊佐）
P.S. 画像をサラッと眺めると、浜中町と千葉県って結構形が似てますね。どこにあるのか探してみよう、モンキーパンチの浜中町！

第23回まるごと豊浦～北の収穫祭～に参加しました

世界大会！

色々あって第23回まるごと豊浦～北の収穫祭～にはしっこ同盟の仲間として出店してきました。

道の駅のパンが好評で近隣のまちでの認知度に驚かされました。(時間の都合でベーグルしか持っていけなかったのが悔やまれる) その他の商品は・・・まあ、可もなく不可もなくという感じでしょうか。今回は無事黒字で帰ってこれました(どやぁとはいえず、商品力の弱さに変わりはないので、物販のイベントでしっかり戦えるようなアイテムの開発が待ち望まれます。はしっこ同盟も今年はしっかり活動するとかしないとかなので、これからの3町の合わせ技開発に期待ですね。しらんけど。

さて、つまらない話はこれくらいにして、本題に入りましょう。

今回のお祭りでは、「**世界ホタテ釣り選手権大会**」という世界チャンピオンを決める大会が開催されていました。

言ったもん勝ち感はあるが、そこそこの盛り上がりインパクトがあり、なんともうらやましいイベントである。名物を活かして、イベントづくりという極々正攻法ではあるが、世界を冠するとなにか迫力が違うなあと感じる。惜しむらくは、世界大会よりも地元のホタテの直売のほうにぎわっていたことくらいでしょうか。

そう、お祭りなんてものは関係者と余裕のある人たちが楽しむ場で、一般ピーポーはそこまで盛り上がっていないのです。

つまり、みんなを参加者側に巻き込んでしまえば楽しんでもらえるってことでもあるのかな？

今回は、黒松内町にもそういった世界大会を作ることで町おこしの一環にならないものか？というのを考えてみようと思う。

私にも簡単にできそう！というスキルほぼ不要で気楽に参加できてワンチャンありそう感を重視した大会を考えてみると・・・

案①世界たねいも子だくさん選手権大会！

ルール：えりすぐりの種芋候補を各自が持ち込み。植え方は自由、切つてよしそのままでもよし。専門家指導の下、観光協会が畑の管理をし、収穫時のイモの数を競う大会。収穫時期をなんとかカビーフ天国に合わせられるといいね。

優勝者には賞金と副賞を何か+チャンピオン〇〇さんのイモとして次回運営が使用。

利点：誰でも手軽に参加可能、評価するポイントが一目瞭然

懸念点：結果がわかるまで時間がかかる。手間もかかる。観光協会が管理すんの！？という皆様の不安

案②世界ブナの実つまみ選手権

黒松内といえばやっぱりブナでしょう！

ルール：ブナの実100粒をブナを素材に使用した専用のはし(菜箸くらいの長さ?)を使い隣の皿に移すまでのタイムを競う(足切りの制限時間は設ける)。優勝するとブナつまみ名人の称号と賞金、副賞としてブナサブレ1年分(迷惑)をプレゼント

利点：誰でも手軽に参加可能、評価するポイントが一目瞭然。速さを競うので意外なもりあがりがあるかも？

懸念点：地味、マイクパフォーマンス等で盛り上げないととにかく地味。

案③世界一おいしいソバすすり音決定戦

今どきのASMRブームに乗っかり、とにかく一番おいしそうなお音でソバをすすった人が優勝。

シンプルだけど味わい深いマニア向け大会になりそう。我こそは！というスズリストよ集え！(適当)

ルール：大会用のそば(奈川使用)3本を一気にすすする。試技は3回まで。むせた場合はおいしくなさそうなので即失格。麵つゆはカスタムしてOK。一番いい配合で臨んでください。ただし、大会事務局の用意した山わさびは必ず規定量入れること。(超重要！)

優勝者は黒松内で1年間蕎麦食べ放題+黒松内町認定名誉スズリストの称号+山わさび1年分

利点：そばのまちアピール(になるのか?)。音を聞いて自分もそば食べたくなっちゃう効果を狙える(かもしれない)。

懸念点：ヌーハラとかいう勢力がいること。審判団の好みに左右されまくる評価システム。全員失格の可能性。

さて、つらつらとしようもない案を出しては見ましたが、おそばなんかは手軽でバカバカしくて楽しそうだなあなんて思いました。

皆様もこんなことやってみたいなどアイデアありましたら観光協会までお寄せくださいませ。一緒に考えましょう！

巷では、インバウンドだなんだと言っているが、来るかもわからないものを待ってないで、こちらから世界に打って出ようじゃないか！

その方がきっと楽しいよね。しらんけど。

観光協会HPにて[B2]バックナンバーがご覧になれます。

www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡ください。

発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2025/3/28 次回発行予定は6月末

TEL：0136-72-3597 FAX：0136-75-7070 Mail：bunatatourism@gmail.com